心地よいワンルームに暮らす

完成現場報告
掛川市／『こだまの家』

文・写真／ココラボ　山崎健治

立春を迎え暦の上では春ですが、まだまだ寒さの厳しい季節です。先日取材で伺った日も寒い一日でしたが大きな窓から太陽の日がさんさんと入り、室内はポカポカと心地よい暖かさに包まれていました。今回ご紹介する掛川市のIさんのお宅は、元々ご実家の離れが建っていた場所に新築しました。敷地に恵まれ日当たりが良くとても静かな場所、昨年秋に二人目のお子さんも誕生し、ゆったりとした環境の中で新しい暮らしをスタートされました。

広く贅沢な敷地ではありましたが大きく頭を悩ませたのは裏山の存在、それほど高い山ではありませんが、急傾斜の地域にかかる場所のため災害に備えて土留め工事が必要な敷地でした。等高線を読み取って高さや角度を計算し、また土木事務所にも何度も足を運んで担当者と打ち合わせを行いました。私たちの住む地域は、山に囲まれた敷地が多く、何度となく経験している対応ではありますが、行政が違うと考え方も微妙に違い、ちょっとした考え違いが大きな問題にも繋がりやすいので慎重に進めていきました。最終的には山裾に沿って高さ1ｍほどの土留め擁壁を設置し、計算で求めた距離を確保して住宅の建築を行いました。土地には様々な規制や基準があり、また行政とのやりとりもとても重要です。建築士として建物だけでなく広い知識が必要だと改めて感じる経験となりました。

Iさんのお宅は、ご夫婦＋お子さん2人の4人暮らし。お隣に暮らすご両親のお宅も大きく立派なので、コンパクトに暮らす小さな住まいを計画しました。1階には、＋α のスペースを持つ広間と水回りを配置し、2階には寝室、子供室、クローゼットを配置しました。延床面積30坪弱とコンパクトではありますが、1階は空間をワンルームにまとめ、大きな屋根付きのデッキを取り込んだ間取りとなりました。デッキには深い軒を設け、室内が暗くならないように軒先まで伸びるガラス屋根としました。屋根付きデッキは雨の日も使えて便利。加えてガラス屋根は暖かな日差しを室内に運び、一年を通して重宝するスペースになりました。

Iさんのお宅の特徴と言えば、広間の一部に設けた＋α のスペースです。打ち合わせの中でも何度か話題に上がり、小上がりの和室にする案などもありましたが、最終的に暮らしの変化に対応できるフリースペースとなりました。現在はお子さんのおもちゃや絵本、壁に造りつけた収納棚にC

デッキ上に設けたガラス屋根はとても明るく、室内の奥深くまで日が差し込む。杉赤板で製作した2階のバルコニーをアクセントに、1階は掻き落とし仕上げ、2階はガルバリウム鋼板で仕上げた外観。

ご両親の住む敷地の一部に新築したIさんのお宅。小高い山を背にし、日当たりが良くとても静かな場所。

P2)　障子越しの優しい光が包み込む広間。栗の床板と漆喰壁、杉の天井板で仕上げたココラボ定番の自然素材の内装。完成した時よりも落ち着いた雰囲気に変わり、それぞれが溶け込んできた印象。

二の字型でぐるっと回れるキッチン。シンク台には広い作業台があり、配膳や調理の際にとても使いやすいキッチン。ココラボのキッチンはひとつひとつ手作りなので、部屋の雰囲気に合わせた材料で製作している。

アトリエプラトーさんに製作してもらったアイアンの階段手摺。なるべく線を細くし、上品な形状となるように細部のつくりや接合部分を考えた。

キッチンからソファーコーナーを見る。出窓風に設けた地袋は、細かな収納が出来て便利。アイアンで製作した階段手摺は、広間の雰囲気を損ねず、空間のアクセントになっている。

Dやオーディオ類を置いています。3帖程の空間ですが、少し張り出したスペースとしてコーナー窓を設置し、一日中明るく気持ちの良い空間となりました。将来的にはお子さんの机を置いてスタディーコーナーに、また、お子さんが成長したらご夫婦のオーディオコーナーにしようと考えています。家族や暮らしの変化に合わせて用途の変化できるスペースっていいですね。変化するスペースがあると、逆に落ち着いたスペースも確保出来、お母さんにとっては片付ける場所も少なく済む利点もありそうです。

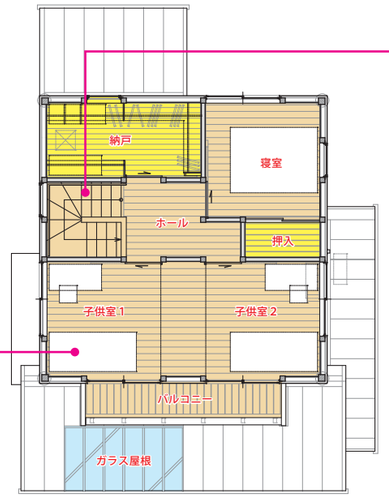
ぐるっと回れるキッチン

広間やキッチンをワンルームで配置する時に気をつけていることは、動きやすさと各コーナーを邪魔しない動線です。必然的にキッチンはアイランド型になる事も多く、シンクとコンロが分かれた二の字型配置はココラボ定番の造作キッチンとなっています。シンク側のキッチンには広いカウンタースペースが確保出来、調理の際の盛り付けや作業スペースとしてとても便利、またダイニング側との境も無いのでそのままテーブルに運べ、お母さんの調理風景が見えるのも良いと思います。お子さんは自然とお手伝い、お父さんもやらないといけない雰囲気…。見えているというのは一見抵抗がありそうですが、家族の暮らし主体でつくる家なら、むしろ見えている事の方が自然だと思います。二の字型のキッチンは、シンクとコンロが離れている事が唯一のネックとなりますが、使い勝手を考えてシンクがダイニングに対して対面配置となり、また、排気の効率を考えてコンロは壁向きとなるのが無理の無い配置となります。慣れるまで少し抵抗があるかもしれませんが、二人でキッチンに立つ時や、いろいろと広げて調理する時にはとても便利な配置です。

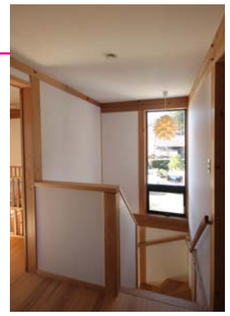
二の字型のキッチンは左右どちらからも動き回れ、行き止まりが無いのが大きな特長です。コンロで調理していても逆から冷蔵庫に行けたり、ぐるっと回って移動出来、動け回れるキッチンとして使いやすい形だと思います。

Iさんのお宅では、キッチンを中心としてフリースペースやソファーコーナーを配置し、それぞれの場所が通り道にならない様に心がけてプランしました。階段や水回り、玄関からの動線を考え、家族みんながあちこちに動いても落ち着いて作業が出来たりテレビを見たりする間取りを考え、ワンルームでも暮らしにストレスをつくらないプランが出来たと思います。階段の一部にアイアンの叩き仕上げの手摺を設けたり、ソファーコーナーに地袋付きの出窓をつくり、空間暮らしやすさとデザイン性もプラスしています。

2階子供室に置かれていたベビーベット。何だか懐かしくなってパシャリ。



2F 平面図

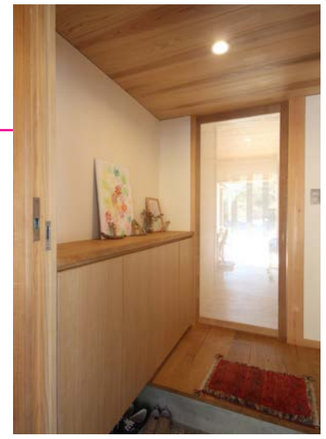


階段の上部にはアパートで使っていた思い出のある照明器具を使った。外からも見えるように大きなガラスを入れた。

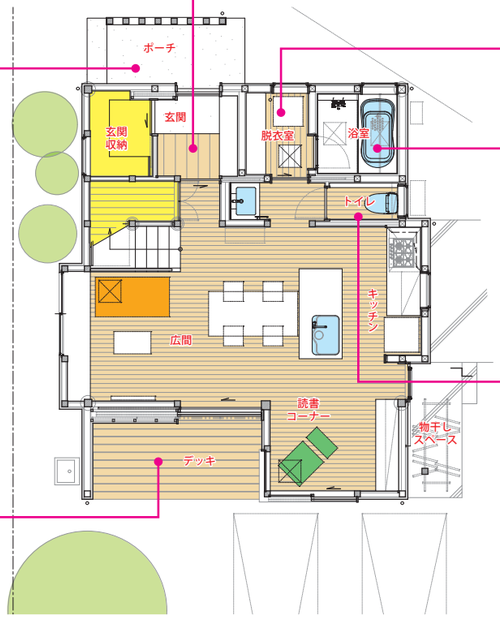
自転車の置ける広めの玄関ポーチ。ポストの口金だけつけて内部から取り出せる工夫ははや定番。

デッキ上に設けたガラス屋根。深い軒の場合はとても有効な手法で、一年を通して重宝する。デッキも長持ち。

玄関収納をカウンター式とし、圧迫感を感じさせない玄関とした。玄関は合わせガラス入りのナラ框建具。



玄関収納と葛布ガラス入りの建具。天井高を低く抑え、落ち着きのある玄関にまとめた。



1F 敷地平面図

コンパクトにまとめた鏡収納つきの洗面化粧台。使い勝手を考えて脱衣室と分けて配置した。

奥さん考案の収納棚のついた脱衣室。物干しの際のゴタゴタや脱衣カゴが上手に収納されている。

1帖の広さにカウンターと収納棚をつけたトイレ。一面だけをヒバ板で仕上げ、木の香りに包まれた空間となった。

浴室はサワラの板で仕上げた。少し赤みのある優しい色合いでヒバに比べ甘い香りがする。サワラもヒバも木曽五木のひとつ。

仕様内容

	家族構成	4人
	敷地面積	212.14m²
	建築面積	59.00m²
	延床面積	88.61m²
	構法	在来構法
外部仕上	屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
	外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼、マサ土掻き落し仕上げ
	外部建具	木製オリジナル建具　ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
内部仕上	天井仕上	杉本実張り 厚30㎜・12㎜、青森ヒバFJ本実板張り 厚15㎜
	壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り、クロス張り
	床	栗本実板 厚15㎜、杉本実板　厚12㎜
	内部建具	木製オリジナル建具、葛布ガラス入框戸
設備	キッチン	ステンレスヘアーライン天板オリジナルキッチン
	洗面化粧台	TOTO 人工大理石天板システムJオリジナル化粧台
	浴室	日比野化学工業　ハーフユニットバス1坪タイプ

設計・施工／有限会社こころ木造建築研究所
竣工／平成29年1月

コンパクトでも動きやすい水回り配置

プランを考える時に重要視している事は、キッチンを含めた水回りの配置です。水回りが遠い間取りは配管等のコストアップだけでなく、無駄な動線やスペースが生まれやすくなります。脱衣や浴室、トイレなどは生活の裏の部分、コンパクトにまとめて来客時などは視線に入らない様な配置を心がけています。Iさんのお宅でもキッチン横に全ての水回りを配置し、無駄なく最短の動線で動けるプランとしました。また、キッチン近くに物干しスペースを設け、広間や外からの視線を考えつつ、乾きやすくて干しやすい場所をつくりました。

水回りの配置を考える時、洗面化粧台の位置について慎重に計画しています。現代の住宅やアパートなどに多い配置として脱衣室に洗濯機と洗面化粧台を配置するプランをよく目にすると思いますが、洗面化粧台を独立させてトイレ近くに配置するケースもあります。来客時の手洗いや、脱衣室を使用している時などを考えると便利で、洗面コーナーとして綺麗に保ちやすくもなります。逆に、汚れ物を一旦洗面台で洗い、そのまま洗濯機に入れたい場合などは不便になる事もあるので、良く考えて決定する必要があると思います。洗面化粧台も様々なタイプがあり、人工大理石の洗面一体型のカウンターや、陶器のボウルをカウンターにはめ込んだタイプなどもよくつくります。Iさんのお宅の様に、鏡裏に収納スペースをつくるケースや、カウンター下をオープンにしてお子さんの踏み台などを収納する工夫などもしています。一口に水回りと言っても様々なプランやつくり方があるので、設計の中の重要事項として確認しています。

Iさんのお宅が完成して、早2年が経過しました。元々暮らしていたアパートで打ち合わせをすることが多かったので、その時の印象もまだ鮮明に残っています。所々に綺麗に飾られた小物や鉢植え、お子さんのおもちゃや絵本もたくさんありましたが整理され、どこかほんわりするお宅だと感じました。新しい家が完成し、間取りも内装もまったく違う家ではありますが、やはり伺ってみると、どこか繋がる部分があり、この雰囲気はIさん流の住まい術だなと思いました。家族が増え、これから益々賑やかな生活になっていくと思いますが、いつでもほんわり柔らかな雰囲気で暮らしていってもらいたいと思います。